

世界の主な火山活動

平成 20 年（2008 年）6 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりです。

ジャイマ（チリ）（図中A）（期間外）

〔CHERQUENCO（チリ）2日 ロイター〕チリ政府は7月1日、南米大陸で最も活発な火山の1つである同国南部のジャイマ山（LLAIMA 3,125メートル）が噴火したと発表し、周辺住民に避難命令を出した。当局者によると、2日も溶岩の流出が続き、地すべりの恐れがあるため、地元スキー場に残っていた人々も全員避難した。

政府は2日、ジャイマ山の周辺15キロを立ち入り禁止区域とし、約40人を避難させた。噴火の影響で積雪が解け、激流や土砂崩れが発生する恐れが出ている。

チャイテン（チリ）（図中B）

チャイテン（CHAITEN）では6月も活発な状態が続いており、周辺地域に火山灰を降らせている。上空からの観測では、新しい溶岩ドームは古いドームの高さを超えるまでに成長している。

（米国スミソニアン自然史博物館のGVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

